

all made in NIIGATA の 観光列車

新潟が誇る技術，名産，味，景色を乗せてリゾート列車が走る えちごトキめき鉄道 ET122-1000「雪月花」車両

新潟トランス株式会社は、地元の第三セクター鉄道のえちごトキめき鉄道株式会社向けに新潟の魅力を詰め込んだ車両を製造した。ローレル賞，グッドデザイン賞に輝いたその魅力を紹介する。



えちごトキめきリゾート雪月花

「雪月花」誕生

えちごトキめき鉄道は、北陸新幹線の金沢開業（2015年3月）に合わせて、新幹線と並行する妙高高原～直江津～^{いちぶり}市振間全長97kmの経営を引き継いだ、全区間新潟県を走行する第三セクター鉄道である。この鉄道の目玉として、また地域の町興しやPRに、観光専用の新しい列車「えちごトキめきリゾート雪月花（せつげっか）」が誕生した。地元新潟県出身のシェフが監修した四季折々の料理を、車窓から新潟の美しい景色を楽しみながら堪能できる。2016年4月より上越妙高駅～糸魚川駅間で、銀朱色の2両編成の新型リゾート列車運行が始まった。2両編成の定員がわずか45名の大変ゆったりとした空間を楽しむ

ことができる。

新潟トランス株式会社は、リゾート車両のコンセプト決定段階から車両製造、そして納入まで「all made in NIIGATA」の一翼を担う形でプロジェクトに参画した。

ダイナミックな展望

「雪月花」の一番大きな特徴は、国内最大級を誇る大きな曲面のパノラミックウインドウだ。今までにない明るい室内を演出するため、足元から天井まで車内から外の景色を展望できる大胆な構造にした。連続する大きな窓ガラスの配置は、カナディアンロッキーを巡る観光列車の展望車「ドームカー」をイメージし



1号車 客室内部

て製作した。また全体的に丸みを強調したデザインは優雅さを醸し出している。日本海に沈む夕日や雄大な妙高連峰の山々など素晴らしい景色を眺めることができる。

曲面構造の大きな窓ガラスを採用するに当たり、複層ガラス構造とすることにした。これは客室内部と外気温の差が大きくなると結露するためである。「雪月花」は2枚のペアガラスを重ねて配置し、その間に乾燥空気が封入された中間層を設ける形で1つのユニットを構成するガラス構造である。この空気層を設けることで結露を回避している。中間層は密閉されているため断熱性能も高まる。また遮熱性を高めるために紫外線(UV)カットガラスを採用している。大きなパノラミックウインドウは展望が良い反面、夏場の強い日差しが天井から降り注ぐ。客室内には日よけ用のカーテンも取り付けられているが、UVカットガラスを使用することで、紫外線透過率を0.01%以下に抑えた。この国内最大級の開放面積を誇る側窓のみならず、鮮やかな銀朱色に塗装された車体が外観の特徴を印象付けている。

all made in NIIGATA

車両のインテリアには、床材に安田瓦、燕・三条の装飾金具、壁に越後杉とブナが使われるなど新潟県産の品々が多数使用され、「all made in NIIGATA」を実現している。なかでも注目される素材は家屋の屋根に使われている新潟県名産の安田瓦だ。安田瓦は江戸時代から続く180年以上の長い歴史をもち、雪国の厳しい気候に適應した断熱性・耐寒性をもった高品質な



2号車 さくらラウンジ

瓦として知られている。特に吸水性に優れており、豪雪地帯である新潟の雪に強い瓦として愛用されている。瓦の表面に光沢のある美しい銀ねずみ色を形成することも特徴だ。見逃せない新潟の名産として鉄道車両で初めて床材に採用した。

車両の製造も新潟県内で行い、車内で提供される食事にも沿線の旬の食材が使用されており、地場産業の振興や沿線観光へ貢献している。

「えちごトキめきリゾート雪月花」は、こうした数々の優れた技術などが評価されて、鉄道友の会「2017年ローレル賞」に輝いた。昨今ポピュラーになった食事をメインとする本格的なリゾート列車としては初めての受賞である。またその美しさが認められて、2016年度の「グッドデザイン賞」も受けている。

これから

新潟トランスリスとして「リゾート列車・雪月花」の成功例を基に、観光列車の需要掘り起こしをする営業活動を展開しており、これまでに複数の引き合いをいただいている。今後も地域にマッチした魅力的かつ機能的な車両をご提供していく。

問い合わせ先

新潟トランスリス株式会社

営業部 東京営業所

電話 (03) 5293 - 5064

<http://www.niigata-transsys.com/>